

中央区立京橋こども園

KYOBASHI KODOMOEN

No. 10-030-2014更新

新築
学校

発注者	中央区	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	清水建設株式会社		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

都会のオアシス

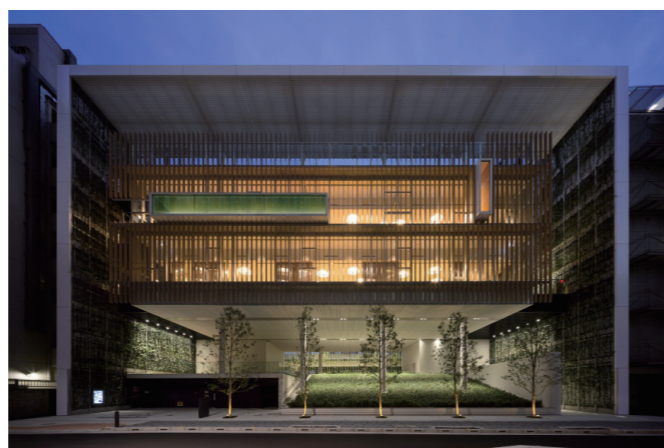
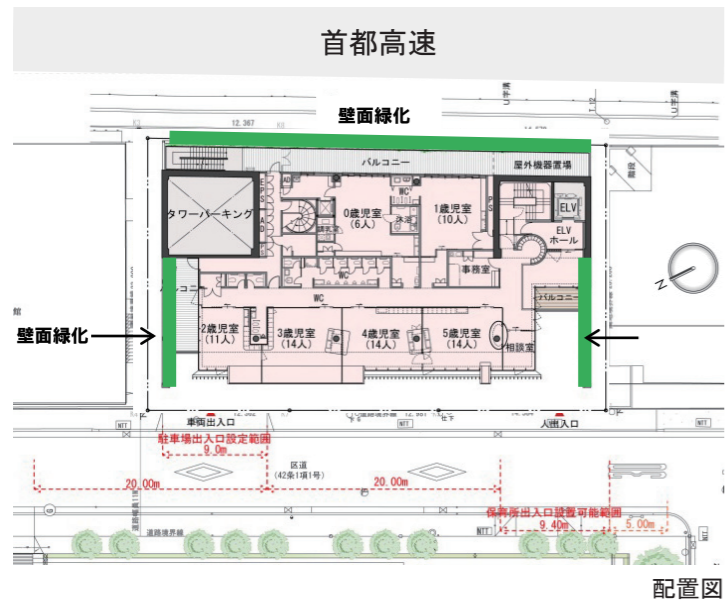
近年、中央区の居住人口毎年増加し、それに伴って乳幼児人口も増加傾向にあり、待機児童の解消が急務となっている。また、京橋地区の子育て支援施設も不足傾向にある。この問題の解決の一役を担うため、認可保育所と子育て支援室を併せ持つ中央区の認定こども園が建設された。

<都心の中の快適環境づくり>

都心の保育園は十分なスペースを確保することができず、重層化したり、ビルの一角に入居することが多く、こどもたちの快適な環境をつくるのが難しいケースが多い。

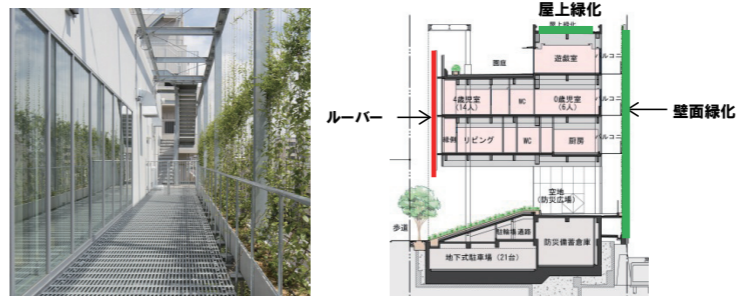
本建物は建物の上下左右にわたり約1,400㎡の緑化を行い、緑に包まれた建物とすることで殺伐とした都心の中に潤いのある街並み空間を提供すると共に、子供たちが緑に囲まれた環境の中で過ごせるようにした。

乳幼児を預かる施設が容易に外部からアクセスできると、不審者を簡単に侵入させてしまう可能性が高くなるため、居室空間を宙に浮かしエントランス以外から侵入することができない建物構成とすることでこどもたちを安心して預けられる施設とした。また、敷地が高速道路に隣接しているため、排気ガスの影響が懸念されることから活性炭フィルターによる排ガス成分の除去をした空気を室内に取り入れている。



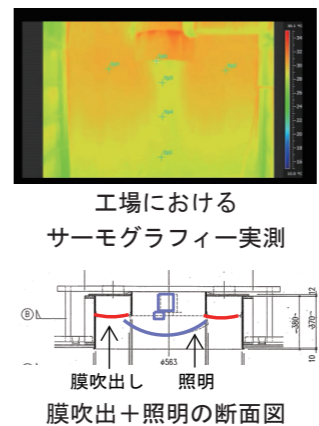
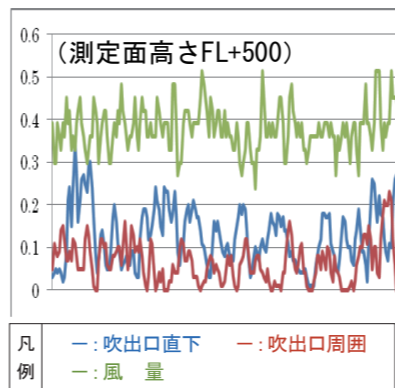
<建物を包む緑化による外皮負荷の低減>

建物を包む多様な緑化は空調の熱負荷低減に役立っている。屋上を緑化し、東側の壁面には蕁系の植物により日射制御を行っている。西面は保育室があるためルーバー+大きなガラス面 (LOW-Eガラス) により西日を遮りながら自然採光を取り入れている。



<こどもにやさしい室内環境>

保育室は遊ぶ・食べる・寝るなど様々な使い方をされる空間である。体調管理を自分自身でできない子供たちのため最大限優しい空調を心がけた。具体的には床暖房+膜吹出し空調とし体温調節に劣る子供たちに気流を感じさせない空調方式とした。天井に円形の上がり天井を設け、中心に照明、周囲のドーナツ型の部分にソックダクトの布を利用した吹出し口を設けた。これにより子供の身長の高さ(50cm)での風速を0.2m/s程度まで落としている。

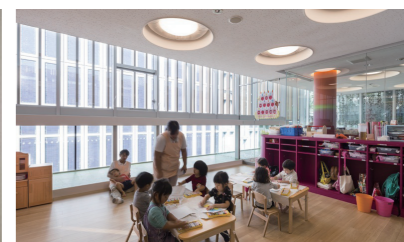


<災害時の機能維持>

地域防災への貢献・・・ピロティ部分の2階レベルに、周辺オフィス街の帰宅困難者の受け入れを行う防災広場を設け、地下には中央区の防災拠点網の一角となる防災備蓄倉庫を設置し、災害時に地域に貢献できる施設となっている。こども園のBCP・・・災害時に親御さんが迎えに来るまで(1日分)の間、施設の機能を維持する設備を持たせた。24時間分の自家発電機、上水の備蓄、雑用水を備蓄する雨水再利用槽、雨水貯留槽の汚水槽利用、マンホールトイレ等の設置を行った。

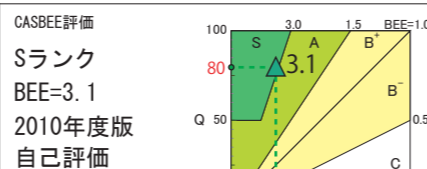
設計担当者

建築：藤田聡、加地則之、岡嶋亜都夫/構造：広瀬景一、榎本秀文/設備：本間康雄、齋田光一、井村隆/インテリア：志村美治、伊藤公美(フィールドフォー・デザインオフィス)/照明デザイン：森秀人、加賀美鋭(LIGHTING M)/写真撮影：建築メディア研究所(※1)、FOTOTECA(※2)



所在地	東京都中央区
竣工年	2013年
敷地面積	941㎡
延床面積	2,651㎡
構造	RC造、S造
階数	地下1階、地上5階

省エネルギー性能	
PAL削減	9%
ERR(CASBEE準拠)	32%
LCCO ₂ 削減	13%



主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(緑化による良好な街並み景観の形成)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮(屋上緑化・外壁緑化による温熱環境の向上)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(LED照明、床暖房の採用)
- LR2. 1. 水資源保護(雨水の雑排水利用)
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減(既存地下躯体の利用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮(建築緑化・浸透性舗装材の使用)